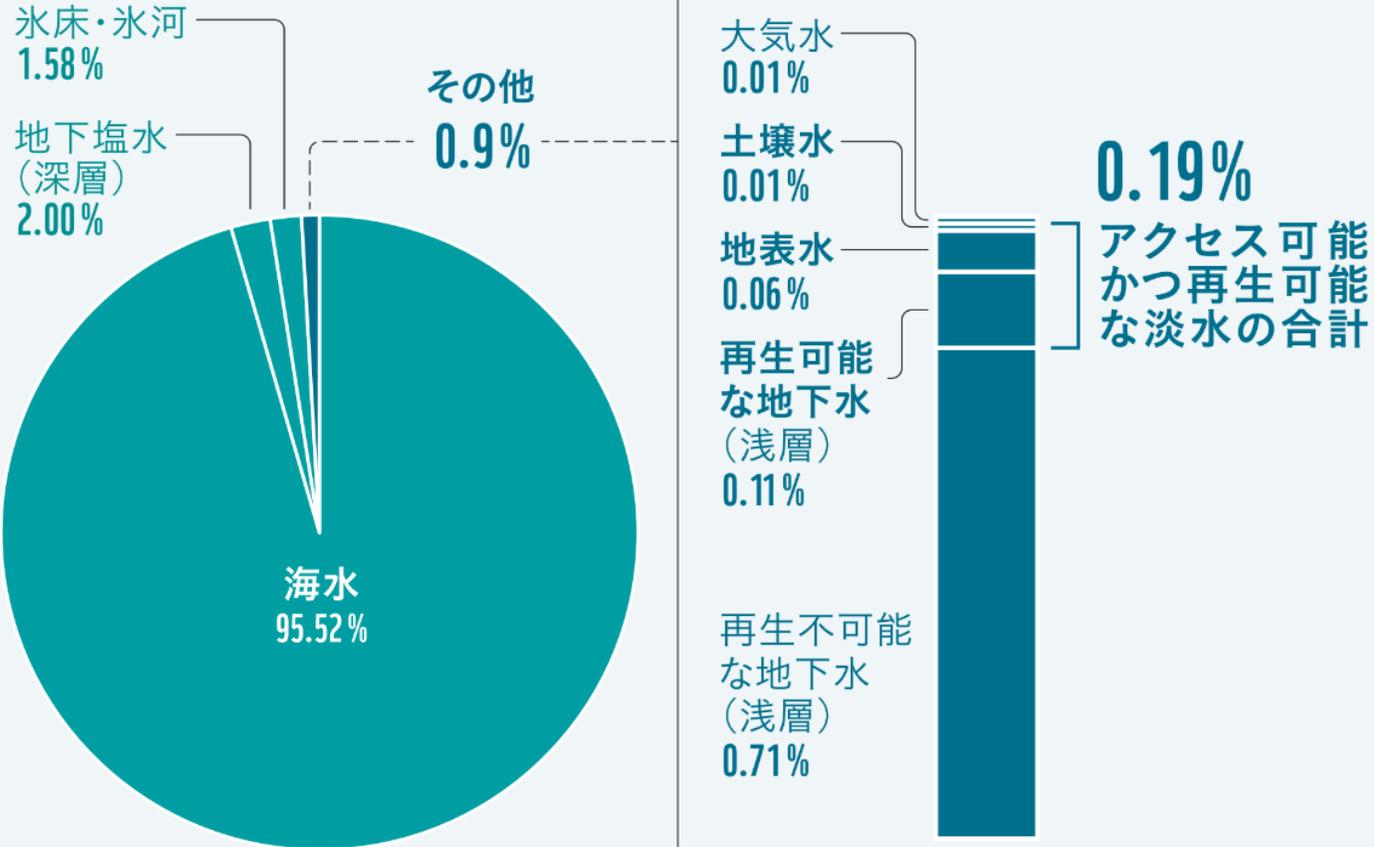


人が利用できる「水」は極めて少ない

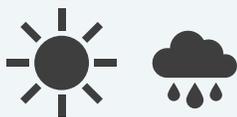


© Staffan Widstrand / WWF

- **アクセス可能かつ再生可能な淡水: 0.19%**
- 希少な水資源は、蛇口からではなく豊かな自然の中で育まれる。
- **WWFジャパン**は、豊かな水資源を育む自然も保全してゆくことが大きな目的となる。

はじめに(淡水生態系の損失と劣化の直接的要因)

気候変動



【直接的要因】
流況の変化

【間接的要因】
水力発電の増加
などの緩和策による影響



間接的要因

エネルギー生成
(発電施設など)

食料・繊維生産
(農業、畜産業など)

都市・インフラ開発

水供給システム開発

- 間接的要因は、世界の水需要の高まりに沿って、現在の水利用レベルを20~30%上回ると予測。
- この予測される増加は、淡水システムに対する圧力の増大を示すものであり、
- 河川や湿地帯の連結性の喪失、汚染、流況の変化など、さまざまな形で現れる可能性がある。







はじめに(水リスク把握と目標設定などの戦略策定に課題感)



- **ウォーター・スチュワードシップ**
- AWS認証
- AWS業種別ワーキンググループ(繊維、農業、IT、食品飲料、医薬品)
- AWSを中心とした情報交換の場(ネットワーキング)
- AWS国際規格による活動支援(自社拠点またはサプライチェーン)
- サプライチェーンにおける協同活動(Collective Action)
- **サプライチェーン全体での水リスク把握**
- 海外における水に関連する現地情報
- 自社拠点の流域における協同活動(Collective Action)
- その他のAWSに関する情報

